

### グラジオラス木子の発芽促進法の解明

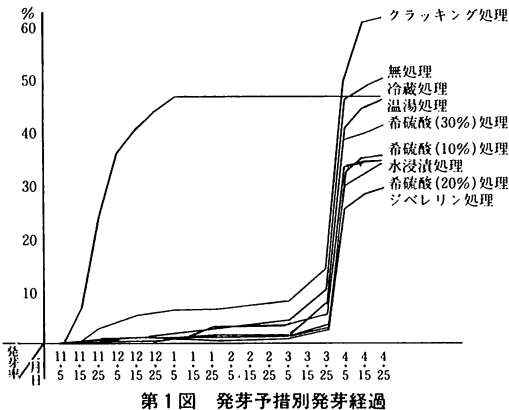
金城栄子・阿嘉良弘 (沖縄県農業試験場園芸支場・沖縄県農業大学校)

Eiko KINJO and Yoshihiro AKA : Method of Germination Promotion of Gladiolus Cormels

沖縄県の冬季はグラジオラスの生育に必要な温度は十分にありながら木子の発芽促進技術の確立がなされてなかったことから球根養成は春播きが一般的であった。しかし促成切花栽培に使用する球根は5月以前の収穫が望まれることから、木子の発芽促進法を解明し秋播きの可能性を検討した。

#### 1. 発芽予措法

“ファイヤーブランド”を用いクラッキング処理, ジベレリン処理, 温湯処理, 希硫酸処理, 水浸漬処理, 冷蔵処理を行った後1982年10月15日に播種し, 1983年4月25日に収穫した。発芽のそろいは冷蔵処理区が12月下旬で最も早く, その他の処理は3月下旬であった。発芽率はクラッキング処理, 無処理, 冷蔵処理の順で高かった。球根の肥大は発芽そろいの早かった冷蔵処理が良い結果となった。



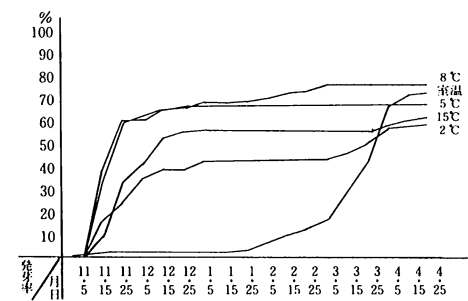
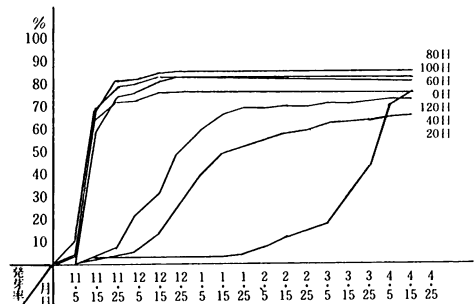
#### 2. 冷蔵処理期間

“ファイヤーブランド”を用い5℃で120日, 100日, 80日, 60日, 40日, 20日間冷蔵処理し, 1983年10月20日播種し, 1984年4月30日に収穫した。また木子の大きさによる感応の差異についても検討した。60日以上処理区は11月中旬に発芽がそろい, 40日, 20日処理区は1月中旬であった。発芽率は80日, 100日, 60日処理は78~82%と高く, 無冷蔵, 120日, 40日, 20日処理は60~72%であった。木子の大きさによる低温感応には差があり, 大は11月中旬, 中は11月下旬, 小は12月下旬に発芽がそろい, 発芽率も大-82%, 中-55%, 小-30%であった。球根肥大は発芽そろいの早い80日, 100日処理が良かった。

#### 3. 冷蔵処理温度

“ファイヤーブランド”を用い処理温度を室温, 15℃, 8℃, 5℃, 2℃に設定し処理期間は1983年7月7日~

10月14日とし10月15日播種し, 1984年4月25日収穫した。処理期間中の木子の状況は室温で10%, 冷蔵で2%の腐敗があった。重量の減少は各区とも少なかった。発芽のそろいは8℃と5℃が11月中旬と早く, 2℃, 15℃は12月中旬, 室温は3月下旬であった。発芽率は8℃-78%, 室温-74%, 5℃-68%, 15℃-62%, 2℃-60%であった。冷蔵処理期間の結果と同様に木子の大きさによる低温感応には差があり, 大きいほど発芽のそろいが早く, 発芽率は高かった。球根肥大は5℃, 8℃が良かった。



#### 4. 総括

一連の試験結果から沖縄県の冬季温暖な気象条件を生かしたグラジオラス球根養成は秋に木子を播種し, 春に球根を収穫する作型は可能であり, そのためには冷蔵処理による発芽予措が不可欠であることがわかった。冷蔵処理は5℃もしくは8℃の乾式で80日~100日間行う必要がある。